

「なっみかん2つ」・「コンサート2つ」

私がこの京都の地で 夢窓幼稚園の仕事をする事になった三十数年前、園庭にあるなっみかんの木が「はじめて実をつけた！」と、まるで私が実をもたらしただかのように よろこばれました。

昭和62(1987)年のことです。

その年のクリスマスには黄色く光るその賜り物のようなみかんを、子どもたちが作ったプレゼントの作品を飾りつけする ところここに添えてお祝いしたことを覚えています。

最も日の短かい間の季節に 祝福の光の子ども「みたい」に思えたような気がします。

葉が落ちる季節を迎えると 下からみかんがよく見えますが、今年は何と2つだけ…

たわわに稔って山盛り収穫できたのが 懐かしいです。

あらら…と小さくため息をつきながらもう一度見上げると、上の方の枝はほとんどコケで覆われているのです。

“もう お年？”と思い調べてみると、「長生きする木もあるが、通常30~40年」とありました。

庭の木は もう50年になるでしょうから、かなりのお年寄りで 寿命が近いのかもしれない。

「何とただ2つ」なのではなく、「2つも実をつけて」黄色の輝きを、寒くなっている今 見せてくれているのですね。

2つのなっみかんの実とも今年もクリスマスをお祝いしたいと思います。

最近 2つのコンサートを体験しました。

ひとつは「ペペ(Paix²)」という女性デュオの歌です。

ペペは 全国にある矯正施設…刑務所や少年院を回り、フリスンコンサートを行っています。



2020年には500回を達成し全国すべての施設を何度も巡り、理由あって社会的につまずいて受刑中の人たちにエールを送っています。

この秋 京都にある更生保護施設の周年の祝賀会に臨席した折彼女たちの歌を久しぶりに聴かせていただきました。受刑中でなくても、日々つまずいては仕切り直しをしている七転八倒の私を元気にし励ましてくれるものでした。

5年前にお会いしたことをお二人は覚えていて下さり、その時の話で盛り上がったのですが、大切にひとつひとつの時を過ごされ、向かい合う人を深く受けとめていらっしゃるのだな!と思いました。

もうひとつは、ウクライナの民族楽器バンド「ラ」の演奏と素敵な歌声を届けて下さったカテリーナさんです。

チェルノブイリ原発から2.5kmの街に生まれ、生後1ヶ月の時に事故が起こりキーウに避難...子どもの時に被曝者としてとても辛い目にあったようです。救ってくれたのは音楽で、チェルノブイリ周辺の子どものための楽団が結成され、人々の支援の輪の核の中ですごい演奏をはじめとする演奏旅行に参加、10歳のときには日本にも来られました。「何と美しい国」と思った彼女は19歳に再び来日、それ以後日本で演奏活動を続けていらっしゃるということです。

今年のロシアによるウクライナ侵攻以後、ニュースでも祖国のお母さまや友だちを想う彼女の姿を拝見したこともありますが、今回祖国ウクライナの美しさ・素晴らしさの復興と、平和な世を願う訴え、演奏と共に歌いあげるのに立ち合えたのは本当に貴重でした。

ふたつのコンサートのことを思い出し、人の生きる世は 何と切ないものだろうと思います。そして同時に人の思いというものが何かを動かして何かを生み出すのだとも感じさせてもらった気がします。

おそらく動物の中で人間は最も弱々しく生まれ、たくさんの支えや助けや見守り...をお互いし合って、はじめて人生を歩むことができるのでしょ!う!

クリスマス...長い間人々が待ち望んだ イエス様の誕生のときに、人を、人の世を、目の前の誰かと私を、思い巡らす機会を与えてもらっているのでしょう。

CDを流し、ふたつのコンサートを胸中に響かせながら、静かに思索へと向かい、クリスマスを迎える準備をしたいと思っています。

園長 升光 泰雄